

実録 分散教育んころ^②

中原 澄子

四年生は挺身隊^①で熊本健軍に行かしたなあ。大矢崎ん波止まで見送りに行つたもんなあ。空襲空襲で避難してそんな間にジュラルミンが削つて飛行機ん部品のごたつとば作りよらしたつて、これでお国の役に立ちよつとじゃろかて、あとで文集に書かしたしともあつとよ。昭和十九年の三月ん終りんころ行かしたねえ。

こんな次あ私たちと思つたばつてえ。そんなうち「本土決戦！」^②ち言わしたろう。私やな、「本渡決戦！」ち思つて、心臓どぎどぎしたつよう。

まこてえ。どつちしてん恐ろしかことじゃつたあ。

ほら本渡高女に沖繩ん^①の二人来らしたな。なあんも言わつさんじゃつたばつてえ、親きようだいんとん心配じゃつたろうなあ。もう危なかけん疎開させたとよ。B 29ん編隊は南から来て南に帰りよつた

もんなあ。そがん^①いえば、いつん間にかおらつさんごつならしたなあ。そらあ分散教育^③で手野の寺に預けられしたとよ。寺から奉仕に行きよらしたと。

分散教育でなんのこつ^④? あんたもう忘れらしたとね。五十七年も八年も前のこつじゃもね、忘れらしてもよかばつて。ほら縦割り編成たあ。私たちが四年生になつて、本渡に天草じゅうん女学生の集まつとつと危なかけんで、みんな自分の村に帰つて、下級生ば連れて「挺身隊」ばつくつたつたい。月謝ば二円十銭も月々払うてなあ。

まこてえ。あん戦争んだんだんおかしゅうなつて天草でん空襲空襲で、夜でん学校警備に走らんばならんごとなつたなあ。そうたあ。亀川ん澱粉工場も、錦島ん造船所もやられたなあ。そんな日は本渡高女も狙われて、一年生の川口さんの頭ば弾^⑤ん貫通して即死だつたつ。校長先生の、こうして両手で抱いとらしたつたあ。そいでん今^⑥んごて生徒集會もなかつたし、葬式ばさしたかどうかも聞いとらんもねえ。親もつらかつたろうなあ。それにこんしとは、空襲の激しかどこ^⑦じやいらの都会から疎開で来とらしたつよ。そがんじゃつたん?

みんなよう働いたもねえ。挺身隊んつもりで。私は佐伊津ん飛行場づくりもしたつよ。岡ば削つて掘げる人もあつたばつて、蒲鉾板のちいつと大きか（ようなもの）ごたつとで、地べたばべたべた叩いて平らにしよつたつよ。あらあ、そがん作業もあつたとおっこんしとは何でん忘れとらす。私と一緒に行つたもね。わたしや知らんとお。忘れつしもうたつかなあ。それがあんだ、本渡ん町で七つ鉦ば時々見よつたつよ。そりやあかつこよかつた。背筋のぴんとして。黒か服よか白がよかつたなあ。そりや特攻隊たい。特攻ん基地は鹿児島とばつかり思うとつたに、こん島でえ？ そん飛行場ばつくりよつたつよ。べたべたべたて、みんな並うで、地べたば叩いてたあ。それがあんだ下駄履きんごたる粗末か飛行機じやつたつよ。

そがんと（お）の居つたけんで、グラマンの天草中飛び回つたつた。若つかアメリカ兵ん顔ん見ゆるとよ。低空飛行で、機関銃ば撃ちまくつて、生きた気はせんじやつたつよ。上津浦でん赤とんば見えたつよ。空中戦まではいかんじやつた。赤とんぼんキリキリ舞いして山ん中に落ちたと。それば見てよか年寄りんしたちの、竹槍は持つて走つて行かしたつよ。

わたしあ、あん光景は今も目に焼きついとると。島子ん浜ん（河原）こうらで泥寄せばしよつたつ。泥寄せて

なん？ 田んぼん泥ば寄せると。塩田（しおた）づくりたあ。海岸に近か田あは、こう、今で言うならプールんごたつとば、まわりには泥ば寄せて作つと。ほら田んぼん地は固かる。そけ海水ば入れて乾かすと。そして、濃ゆうなるまで天日干したい。それで塩になつとね。いん（いん）にや、濃ゆうなつた海水ば大きか釜に入れてかまどば炊くと。石炭ば使うたつ？ そがん（そのようものは）たなか。寄れ木ば拾うて干してそれで炊いたつたあ。天草ん無煙炭は質のよかけん、私も国の役に立つとつとて思うて、山ん上から一日何回も、防空頭巾の肩に二本も三本も担いで、ずるずる滑り落ちよつたつた。そがんたみいんなしたつと。

わたしが忘れられんていうとは、そん浜んこうらでん、あんときんことたあ。泥寄せばしよつたらピカツて光つたもんね。今んとは何じやろかいて、そん方ば見えたつた。ちようど西日の沈む方角たい。こんまっぴるまに。まこてえ、半熟卵の黄身の（たまご）ごたつとよ。夕日の二、三倍はあつたなあ。まこてえ（たまご）きれたつたあ。そんあとじやもね。もくもくもくて雲の上がり始めてチカ・チカ・チカで光るもんな。そうしたらドガンていうたけんで、浜ん掘つ建て小屋にばつととび込うだつ。女学生も中学生もいっしょくたばい、重なり合うて。ほら音は光よか遅かるう。浜んこうらから跳び上がる（ごたつた）つたつと。

あんた、ま(ま正面から)っほし見たとね。五十キ口位先はい。私は光は見とらんと。確かのりちゃんといっしょだったと思うと。海端(うべ)のときわのいっばい茂つとる所で蛸壺(たづ)んごたつとば堀りよつたつじやなかるか。ドーンち地面の揺れたと。恐ろしかったあ。ときわの中にバアツと伏せた。そんなと上ば見たら島原ん方に大きか雲の上がつとつたと。

私はね、あの日は坑木運搬だつたけど、山の高い所だつたから、樹と樹の間に、赤かバラが次から次から開くごと燃え上がるのが見えて、恐ろしゅうて、がたがたからだか震えだして止まらんだつた。近くにおらした先生たちが、「あれはただごとではない」て言わしたとば覚えとると。

そしたらあれは、なんじゃつたろうかなあ。志柿ん山の蚕(かい)の室(むろ)で桑ん葉ば撒いてやりよつたら警報のかかつたけん、冷蔵庫(れいぞうこ)にとび込んだとよ。警報はすぐ解除になつたけん蚕ん所に戻つたら、地(じ)の底んツンとしたもんで、今んとは何じゃるかと思うたと。地震じゃなかとはい確からしかつた。すぐ室から出て外ば見回したばつてえ、なあんも起こつとらんし、よう晴れて遠か所までよう見えた。そん空ん下ん地平線のひとつとつところに、うす青か空のあつたと。

生まれて初めて見る空じゃつた。この世んもんとは思われん不思議か色じゃつた。じいつと目ば見開いて見つめとつたばつてえ、瞬きしたら無うなつとつたと。慌てて室に入ったとたあ。

①昭和十九年一月九日、女子挺身隊の動員配置を決定、14〜25歳の未婚婦女子を軍需工場に配置した。

②昭和二十年六月八日、天皇臨席の最高戦争指導者会議で、本土決戦の方針採択。

③天草では昭和十九年五月十五日から同二十年（敗戦後）十月三十日まで実施された。

④海岸に打ち寄せられた木切れ。

⑤「こきわすすき」多年生草、群生、根茎短硬。昔は防風林の代用として重宝された。

⑥太く長い「灰石」で周囲を方形に囲み、温度を一定に保つ養蚕用の冷蔵庫。